

🌿 チェンバロの日！2018 🌿

5月19日（土）・20日（日）

於：松本記念音楽迎賓館

新緑が眩しい季節に 毎年開催される「チェンバロの日！」
今回のテーマは 今年 生誕 350 年を迎える フランス・バロックを代表する作曲家
フランソワ・クーブラン（1668～1733）！

様々な角度から 彼の魅力を掘り下げる充実の2日間
どうぞご期待ください！

コンサート

有田千代子氏、石川陽子氏、小川園加氏がそれぞれ「フランソワ・クーブランの美」「J.S.バッハに見るフランス様式の作品」「オールドルに描かれた女性たち」をテーマに演奏します。
三者三様の音楽を、どうぞお楽しみに！

講演会

美学者 小穴晶子氏による「表題付き描写音楽の思想的背景を探る」、音楽学者 関根敏子氏による「クーブラン時代のパリの地図から迫る音楽事情」、リュート奏者 水戸茂雄氏による「クラヴサンへの影響～リュートによるノン・ムジクレとスタイル・プリゼ～」。
充実した内容の講演、ご期待ください！

展示販売

運営委員による手作りのチェンバロ小物がお迎えいたします。
また、珍しい楽譜やCDもたくさん揃っています！
交流と憩いのスペースへ、どうぞお越しくださいね。

懇親会

初日の宵を締めくくるとは、美味しいお料理と楽しい会話。
なんと参加費は無料！（一日券のご購入は必要です。）
チェンバロを愛する皆様と、有意義な時間を共有できることを、心待ちにしております。

それから

会場から一歩出るとそこは、新緑の美しい木々に囲まれた庭園。
のんびり散策し、ゆっくりと深呼吸してくださいね。
五感すべてが満たされる「チェンバロの日！2018」、たくさんの新たな出会いと思い出が、あなたを優しく包みます。

全曲リレーコンサート

クーブラン『クラヴサン曲集』全作品を、チェンバロを愛する方々がバトンを渡しながら、2日間に渡ってリレー演奏！
完走でなく、完演！？できるように、皆様の熱い応援をよろしく
お願いいたします！

試奏タイム

ご来場の皆様にもぜひチェンバロに触れていただきたいという思いから、今年は試奏タイムを設けました。
初体験の方もそうでない方も、ご自身の指から伝わる生の音の振動、そして楽器の体温を感じてくだされば幸いです！

クイズ・チェンバーロン！

恒例の人気コーナー、チェンバロ博士とプレクト・ラムちゃん
がご案内する、クイズの時間です。チェンバロにまつわる様々な難問？が、あなたを待ち受ける…！各回の最高得点者には、
博士の称号を授与！
求む、果敢なる挑戦者！

ミニチュアチェンバロを作ろう

ペーパークラフトで作る世界で一つだけの小さなチェンバロ。
美しく装飾を凝らして、理想のチェンバロに仕上げてみませんか？
チェンバロ工房のスタッフと共に、楽器の構造を学びながら
楽しく工作しましょう！

「チェンバロの日！2018」に関するお問い合わせは
こちらへどうぞ！



cembaloday@yahoo.co.jp

第29回例会 「公開講座：古楽復興とレオンハルト ～レオンハルト没後5周年に寄せて～」

2017.9.17 桐朋学園調布キャンパス 222 教室

2012年に亡くなったグスタフ・レオンハルト氏から薫陶を受けた、4名のチェンバロ奏者による座談会が開かれました。台風襲来のために開催が危ぶまれる中、24名の聴講者をお迎えできました。

数々の資料を駆使して、氏の生涯と業績を辿るだけでも非常に有益でしたが、直接教えを受けた弟子によって明かされた、氏の教授法、言葉の数々、思い出などのエピソードは、聴講者として一つも聞き漏らしたくないほど、深い感銘を受けるものばかりで、極めて有意義な例会であったと思います。

開催にあたって、3時間半に及び会を取り仕切ってくださった司会の安田和信氏、ご協力いただいた桐朋学園の関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。
(鴨川華子)

荒天にもかかわらず会場は満杯となり、グスタフ・レオンハルトに直接師事した方々からの貴重なお話を聴きたいと集まった演奏家、愛好家の熱気に包まれていました。

パネリストは、この企画の発案者である渡邊順生氏と、古賀裕子氏、山名朋子氏、家喜美子氏の4人で、いずれも1970～90年代にオランダに留学し、アムステルダム歴史的建造物に指定されている美しいレオンハルト邸に毎週のようにレッスンに通い、学んだ経験を持つ演奏家の方々でした。ディスカッションは、桐朋学園大学准教授の安田和信氏の司会により進められました。

ハンドアウトも、レオンハルト前後のチェンバリストのリスト、レオンハルトの弟子約160人のリスト、渡邊氏により詳細な情報が分類・記載されたレオンハルトのディスコグラフィック・リスト、山名氏によるエッセイ〈教育者としてのレオンハルト〉と、大変貴重な資料が配布されました。

ディスカッションでは、時折これらのリストの内容にも言及しつつ、レオンハルトという芸術家を必然的に生んだ、音楽に溢れた家庭環境について、また本格的に演奏活動を開始した1950年代以降、歴史的な名器や名レコーディング・プロデューサーとの出会いにより実現された名録音の数々と、それらが音楽界に与えた衝撃と意義について、さらにレオンハルトのレッスンでの様子や記憶に残る言葉、その人柄を偲ばせるエピソードなどのお話が次々と繰り出され、最後に会場からの質疑応答の時間も取られました。

音楽、とくに古楽を深く探究しようとするすべての者にとっての偉大な師であり、西洋音楽界の巨星であるグスタフ・レオンハルトが逝去したのは2012年1月16日(享年83歳)。渡邊氏いわく、「彼がいなければ今日の古楽復興はなかった」のであり、そのような存在にもかかわらず公式に記された伝記がないことを残念に思った同氏が、レオンハルトの未亡人に問いかけたところ、「夫はそうした文章が出るのがいやだった」と、記録することへの協力を断られたそうです。それでも、師の生涯を辿ってみたい、そこから分かることがあるはず、との思いで、レオンハルト没後5年の昨年、チェンバロ協会の例会でこの企画を行うことを提案した、と渡邊氏。私にとっては、協会の会員になって初めて参加した例会が、この大変忘れがたい機会となりました。

ここにすべては書ききれませんが、パネリストの方々から披露していただいた、レオンハルトのレッスンの様子や言葉から、いくつか印象的だったものを挙げましょう。

レッスンでは、少し離れたところから、弟子の演奏を一度通して聴き、必要な指摘や、学びを促す「質問」をしてくれたこと。いつも良いところを見つけようと、共感をもって聴いてくれたこと。レッスンに持って行く曲は自分で選ばねばならず、また、ひとつの曲はレッスン一度きりなので、弟子は毎週新しい曲を準備しなければならなかったこと。家で庭仕事をするときも三つ揃いのスーツを着ていたこと。

「チェンバロは宮廷で弾かれていたもの」と、立ち居振る舞いも大切であることを自ら示していたこと。そして、「常に自分は『知らない』と思って、研究心を持ち続けなさい」「沢山の絵や建築を見続けなさい。そうすれば音楽との関連が分かってくる」「多くの人は目を使いすぎて、耳を使う大切さを忘れてる」「チェンバロは歌うように語りなさい」「音楽を学ぶすべての人が歌えなければならない」「本来、チェンバロでできない表現はない。音楽にその表現が要求されているから」「チェンバロからチェンバロの音が聞こえているうちはまだまだ。弦楽器や歌の音も聞こえてこなければ」「生まれ変わってもチェンバロを弾きたい」といった言葉の数々。

こうしたお話を伺って、直接レオンハルトの薫陶を受けた先生方を羨ましく思うと同時に、レオンハルトの「遺伝子」を受け継いだ演奏家の方々から、私自身も同じエッセンスのお話や教えをいただいた経験が幾度もあることを思い起こしました。レオンハルトが生涯をかけて探究し続け、愛弟子たちに伝えたことが、そうした優れた演奏家の方々の実践と教育によって、私たちの世代、その次の世代にも届くという幸せを、改めて思った例会となりました。
(津屋式子)



◆ ここからは、当日配布された山名朋子氏のエッセイ〈教育者としてのレオンハルト〉を、一部抜粋して掲載いたします。

今回この例会へお誘いいただいた時、正直少々迷いました。単に同窓会のようになってしまわないか、ごく個人的なことしかお話しすることができないのに、それが若い皆さん方にとって意味があるのだろうかと考えてしまいました。

でももうレオンハルト先生が亡くなって5年も経ち、歴史上の人物となった今、自分がどうやって形成されてきたかを振り返り、他のお弟子さんと情報を共有することで、再びこれからの自分の音楽活動への指針となるのではないかと。そして、それはもしかしたら若い方々の将来にとっても有益なことなのではないかと思い、引き受けました。

メノ・ファン・デルフト氏が調べてくれた弟子のリストを見ると現代のチェンバロ界で活躍している奏者がずらっと並んでいます。それはもちろんその一人一人の音楽的才能によるところもあるでしょうが、そこに師レオンハルトの教育の成果があることを無視することはできません。

ー レッスンについて 25年以上前の記憶から ー

約束のレッスンの時間の少し前、歴史的建造物の大きなドアの前に立ちベルを鳴らすと、レオンハルト先生が迎え入れてくださいます。入るとまっすぐ長い廊下を歩いて奥の中庭側の部屋に入ります。スキップ・センベ氏によれば、ここはレセプション・ルームで、私がレッスンを受けていた時はダウドのミートケ(?)が置いてあり、ここでレッスンを受けました。一度は2階のスコヴォロネックのデュフェール、一度は半地下の部屋でケネディのミートケでレッスンを受けました。その部屋からは晩秋の中庭の紅葉がきれい、しばし見とれてしまったことを思い出します。1階の部屋も2階の部屋も天井が高く、漆喰による装飾と天井画があり、家具、調度品もまるで博物館のようでした。

私はそのままチェンバロの前に座り、先生は少し離れた壁の前の椅子に座り、私は弾き始めます。最初のレッスンでは大変緊張しましたが、すぐに慣れ、暗がりの先生からはポジティブに聴こうという気が感じられ、ほとんどの場合、練習をしてきた中でベストの出来で弾けたような気がします。

その後、Wellとかfineとか言いながら先生は近づいてきます。君はこの時代のフランスの画家を知っていますか?とか、この曲は何年に作曲されたか?自筆譜と出版譜について知っているか?などの質問があります。毎回のレッスン曲について批判校訂文を調べたり、画集を開いたり、でもいつも質問にしどろもどろの答えしかできませんでした。

私の演奏の全体の印象を言われた後、個々の作品の具体的な演奏法についてのコメントがあります。時には代わって弾きながら、楽譜に書き込んでくださいます。バッハの平均律のフーガなどは苦勞して譜読みしていても、主題について、性格、アーティキュレーション、和声、骨組み等の解析をして、あとはこれを全部自分で実現すれば良い、でお願いします。他には何を持

って来た?でした。たいてい30分の曲を用意してやっと1時間のレッスンになるという感じてました。50分で終わってしまった時、シェリー酒をご馳走になったこともありました。次のお弟子さんと会うことは稀で2回ほど記憶しています。フローベルガーのファンタジアを弾いていた時で、次のお弟子さんにこの曲は誰の何の曲だと思う?と聞いていました。フレスコバルディかな?と答えていてレオンハルト先生は満足そうでした。

とりわけ印象的だったのは、気が向くと、あるいはそれが必要と思われた時、曲をかなりまとまって弾いてくださったことです。身近での演奏はそれはそれは素晴らしく、歌いながら身振り付きで教えてくださいました。左手には特に常に驚嘆しました。言葉の不自由な私には最大限のプレゼントでした。

約束の1年間が終わりに近づくと、毎回のレッスンで言われることが重なってきました。自覚していることを度々言われるのはかなり精神的にきつかったです。私の場合は「paleにならないで!もっとvividに!」でした。一度は「日本の女性は、一歩下がってと育てられてきていることを知っている。しかし音楽において下がってはいけない」と言われました。真面目だった私は必死に表現しようと試みました。最後の30回目のレッスンで、「今日の演奏はloudだ。もっとnobleに」と言われました。そして「全体的によく考えていてintelligenceがありpleasantだけど、わかっているとは思いますが、もっと音楽に任せて、弾く時はもう考えない」というアドバイスを受けました。

卒業時に家喜美子先生に、レオンハルトの影響から自由になって独自の道を歩むには、卒業して10年ぐらいかかると言われました。帰国後、師の来日の際にお会いすると、演奏活動で活躍しているものと扱ってくださり、当時2人の子育てに忙殺されてなかなか思うように演奏活動ができなかったのでそう申し上げたら、受け入れてくださいました。私も歳を重ねてかなり図々しくなりましたが、全体をとらえることは昔より楽になってきました。来日のリサイタルで演奏の細部、全体の意味が以前よりよく感じられるようになったような気がします。

2011年5月、西宮でのリサイタル後、夫と長女を連れて楽屋に挨拶に行きました。若い頃のバッハについて少し話したあと、大地震で多くの外来の演奏家によるコンサートのキャンセルが続いたことをふまえ、こういう時にいらしていただきありがとうございますという感謝を述べました。…my professionと言って両手を広げられました。その時は「これが私の仕事だからね」という軽い謙遜かと思いましたが、後で噛み締めてみたら「信仰告白」かも、とも思いました。

レオンハルト先生が亡くなられた次の年に、芝崎久美子さんがやはり亡くされました。そうやって時は過ぎていくものなのかもしれませんが、師匠、先輩を見習い、真なるもの、善いもの、美しいものを求めていきたいと思えます。

第30回例会 「『あなたのテンポ設定それで満足ですか?』 J.S.BACH 平均律クラヴィーア曲集 1722年 第1巻 テンポ設定をもう一度考える」
2017.10.30 弁天町 ORC 200 生涯学習センター

台風直撃が心配された日程であったが、丁度前日に過ぎ去った後で直前申し込みもあり、30名以上の出席者に恵まれた。うち23名が協会会員でなく、モダンピアノ関係の方の口コミで

の参加で、こんな協会があるのですね、という声も聞かれた。多少なり当協会の存在を知っていただく良い機会になったのであれば幸甚である。

(次ページに続く)

内容は、この例会の前日まで京都教育大学で開催されていた日本音楽学会において同テーマで栗形自身が発表した内容を膨らませたもので、特にルネサンスからのテンポの規則等に詳しくないと思われるピアノの教師を対象に、音源も使用しての2時間の講義を行った。

C、♩の本来の意味、バッハが意図したと想像出来るテンポ・オルティナリオの拍を手で取る練習、そこから割り出す3拍子系の拍子などを学習し、そこから平均律曲集のテンポ設定を考え直すきっかけを探った。

最近になってようやく、17、18世紀の拍子記号の意味について再考察が必要、という意見が大きくなり、セミナー、勉強会などが行われるようになった。これは久保田慶一当協会会長訳の、K.パウルスマイヤー著『記譜法の歴史』翻訳刊行によるところも大きいだろう。J.S.バッハが生きた時代の音楽理論の大

変換を想像すれば(旋法から調性、ソルミゼーションから「シ」を使った音階等々)、拍子、速度記号に関しても今までとは違った、歴史にもっと寄り添った考察が必要なのは当然と言える。

バッハが拍子記号の推敲を繰り返していた事は、残された楽譜資料から十分に理解できる。そろそろ「巨匠」の録音、演奏や校訂楽譜に頼るのは止め、自分の直感と責任に従ってテンポを設定する時代にしないといけないだろう。勉強が演奏を自由にする、という事を是非実感して欲しいものである。

最後に、当日の大阪の会場が駅から直結でアクセスが便利な上、このような会には設備も整っており部屋も明るく、経済的にも理想的であったことも一言言及しておきたい。現地で便宜をはかってくださった会員の方々に、紙面を借りてお礼を申し上げたい。(栗形亜樹子/講師)

第31回例会 「みんなで作るフリー・コンサート in 松本記念音楽迎賓館」

2018.2.4 松本記念音楽迎賓館

今年度のフリーコンサートは、ソロの演奏で7名の方が参加されました。皆さま緊張されながらも楽しい雰囲気で行き、素敵なコンサートになりました。演奏の後には古賀裕子先生による全体の講評。実際にチェンバロを弾きながら、お一人毎にとても丁寧なアドバイスをいただきました。

来年度も開催予定です。ソロでもアンサンブルでも！皆さまのご参加をお待ちしております。

(福岡彩)

参加者と演奏曲目は次の通りです(敬称略)。

- ・金澤和子
J.P.スウェーリンク：涙のパヴァーヌ
J.S.バッハ：平均律クラヴィア曲集 第2巻 第19番 BWV888
- ・穴田みきこ
J.S.バッハ：イギリス組曲 第1番 BWV806より プレリユード、クーラント、サラバンド
- ・村井祐子
J.-H.ダングルバール/リュリ：サラバンド《地獄の神》、ファエトンのシャコンヌ
- ・嶋本けい子
J.S.バッハ：イギリス組曲 第4番 BWV809より プレリユード、クーラント、サラバンド
- ・荒木秀一
J.S.バッハ：シンフォニア 第4番 BWV790、第8番 BWV794、第15番 BWV801
F.クーブラン：クラヴサン奏法より プレリユード第5番、クラヴサン曲集 第5オールドより《波》
- ・高野凜
J.S.バッハ：平均律クラヴィア曲集 第2巻 第5番 BWV874、第6番 BWV875
- ・古家岳
J.S.バッハ：パルティータ 第4番 BWV828より 序曲、クーラント、メヌエット、ジーク



－ 参加者の感想 －

♪ 連日の厳しい寒さもこの日ばかりはひと休み。暖かな日差しが会場のステンドグラスに映え、くつろいだ雰囲気の中お互い演奏を楽しみあう、そんな贅沢なひとときを過ごすことができました。そこでは、ひとり練習に取り組んでいた曲が、あたかも別の衣をまとったかのように新たな力を得て放たれるのを、演奏しながらひしひしと感じました（もちろん会心の出来というわけでは全然ないのですが）。参加された皆さんそれぞれの思いが詰まった演奏が、私にエネルギーを与えてくれたのだと思います。ありがとうございました。（村井祐子）

♪ フリーコンサートに参加させていただき、非常に多くのことを学べて、「参加して良かった！」と心から思えました。今回の経験を活かし、さらに努力して参ります。楽器で手本を示されながら丁寧にアドバイスをしてくださった古賀裕子先生、きめ細やかにサポートしてくださった例会係の先生方、最後まで温かく聴いてくださった聴衆の皆様、本当にありがとうございました。（嶋本けい子）

♪ 今回初めてフリーコンサートに参加させていただきましたが、人に聴いていただけるのは幸せで、緊張はしましたが楽しいものだと思います。自分への課題も見つかり、充実した時間になりました。また機会がありましたら、参加したいです。（荒木秀一）

♪ 本番はもちろん、参加者の皆様と古楽について語り合えたのがとても楽しかったです。古賀先生からいただいた講評もとても細かくて勉強になりました。今回教わった曲を今後も活かせるように頑張りたいです。（高野凜）

♪ 今回のコンサートで、まさかの最終演奏者になったと知ったときは、焦りと不安でいっぱいになりました。急きょお知り合いの方にお願ひし、休日にチェンバロをお借りしに行くほどでした。しかし、その練習のおかげで、今回は練習を重ねたこともあり、緊張はしましたが、前回より楽しんで弾くことができました。ミスの連続でしたが、悔いは残っていません。そんな中、坂由理先生が「この曲が好きだって思いがすごく伝わってきた！！」と褒めてくださったことは、泣くほど光栄なことでした。改めて、調律していただいた坂先生、演奏とともに的確な講評をいただいた古賀先生、そして、企画していただいた方々と、最後まで聴いてくださった方々に深くお礼申し上げます。（古家岳）

第 32 回例会 「フランチェスコ・コルティ氏によるチェンバロ・マスタークラス」

2018.2.17 スタジオ・ピオティータ

2月17日（土）午後、フランチェスコ・コルティ氏によるマスタークラスが開かれました。活気に満ちた雰囲気、鮮やかな実演、そして的確な助言の数々は、受講生のみならず聴講の人たちにも強い印象を与えました。

長時間、配慮に満ちた通訳で支えてくださった植山けいさん、開催にあたりご尽力くださった、スタジオ・ピオティータの西澤新さんに、心より御礼申し上げます。（坂由理）

受講者と受講曲目は次の通りです（敬称略）。

- ・山本明日香
G.フレスコバルティ：トッカータ 第2巻 第1番
- ・西野晟一郎
G.F.ヘンデル：組曲 第5番 ホ長調 HWV430
- ・縄巻知佳
G.F.ヘンデル：組曲 第3番 二短調 HWV428
- ・金澤和子
J.S.バッハ：平均律クラヴィーア曲集 第2巻 第20番 イ短調 BWV889
- ・山下実季奈
J.S.バッハ：平均律クラヴィーア曲集 第1巻 第13番 嬰ハ長調 BWV858
J.S.バッハ：ラインケンのテーマによるソナタ イ短調 BWV965

会場は駅から15分くらい歩く静かな住宅地にあった。風の強い中、コルティ氏はお買い物に出たとか。少々遅れたものの、戻られてからすぐ、快活な雰囲気ですぐマスタークラスは開始。主に英語で進められた（たまにフランス語も）。

残念ながら今回コンサートでのコルティ氏の演奏を聴くことはできなかったが、このマスタークラスを通して、音楽や演奏についての考え方や視点が明確に示されたと感じた。そのあたりを中心に報告として、項目をたててまとめてみた。

（次ページに続く）



◆ 理論的 logical

繰り返し使われた単語は「理論的 logical」で、理論的な分析を根拠に演奏表現を行なっていく。例としては、

- ・ 音楽的な内容、構造を、理論的にわかりやすく演奏するように。奏者の和声構造理解の助けのために、曲の一部分を細かい音符を取り除き要約した和音進行のみで弾いて示した。
- ・ バロック音楽においては文法的に（この場合は grammatically）、不協和音は強い・協和音は静か。白なのか黒なのか、が明確である。
- ・ durezze ligature 等、不協和音の連続は、時間をかけて表情豊かに演奏するが、理論的に移り変わる和音を聴き、和音の色を感じるようにする。不協和音の特別な表情を生むために、ぶつかる音を保つなどして響きを強調できる。

◆ 作曲家が何を考えていたかが一番大事

◆ 奏者が何をしているか聴き手にわかるように

- ・ ヘンデルは 1720 年代オーケストラ作品を多く書いている。組曲 5 番はチェンバロにオケの音色を入れ込んで作曲している。
- ・ よく書き込まれた作品は短時間に沢山のことが詰まっているため、思わぬ内容が現れるなど面白いところは面白く弾き、何が大事かを表現するだけでよい。カデンツのように何が起るかわかる面白くないところは普通に、特別なことをしなくてよい。
- ・ 部分部分の書法・ダイナミクスの対比、構造を浮き彫りにすること。例として室内の壁が縦に 3 種類の違う素材と色で構成されていることを示した。
- ・ アーティキュレーションを一音ごとに入れるとすべて同質になってしまい、表現ができない。豊かな表現のためにはレガートや効果的なアーティキュレーションが必要。
- ・ 半音階は、例えば苦悩や苦しみといった表現で使われ、複雑で凝縮した音楽となる。奏者は、時間をかけてよいので、聴き手にそれを聞かせ理解できるように演奏する。

◆ 自由な表現のために

- ・ フレスコバルディのトッカータ集の序文にあるように、トッカータの最初にその調に関係する和音をゆっくりアルペジオのようにして奏するが、どんなふうに弾くか決めるのではなく、毎回違って弾ける柔軟性が必要。練習法としては、上から下からのシンプルなアルペジオに始まり、音域の高低・広さ狭さ、早く遅く、だんだん経過音を加えるなどしてより複雑にしていくな。その過程でも毎回異なるアルペジオを試す。アルペジオ指示のある和音（の連続）やカデンツ（部分の即興）においても同様に。
- ・ 繰り返し部分での装飾について、2 度目は同じことをしないように。ヘンデルの場合、G 小調が 8 つの組曲を、より易しくし多くの装飾を入れたものを残しているの、装飾の参考や検証に役立てることができる。（Ut Orpheus 出版）

◆ 音楽の形式 form の把握

- ・ どういう形式で書かれているかの分析ができれば、演奏の方向性がわかる。例えば、ヘンデルの組曲第 5 番エアはガヴォットであり、それがわかれば小節線的位置にかかわらず、どこにアクセントが来るかがわかり、どのように弾けばよいかかわってくる。ヘンデルにとっては、小節線よりも構造が重要。
- ・ 18 世紀は構造・構築性 construction が重要なので、形が明確になるように表現する。当時の建築・楽器・音楽（聴き手が構造を知っている）は構築性なしには語れない。17 世紀は驚きがいっぱいで、構造は未確定。さらに 19 世紀は、よりたくさん形式と自由がある。

◆ 環境・響き・演奏

- ・ 部屋（会場）や楽器が変わった場合、響きが変わるので、演奏をより良く順応させる必要がある。また、レジストレーションを変えたら弦の鳴り方が変わるので、これもより良く順応させなければならない。実例としては、狭い部屋で 8 フィート 1 本からカブラーを入れ 8 フィート 2 本に変えた場合、同じテンポだと早すぎて聞こえる為、ややテンポを落とす必要が生まれる。
- ・ フレスコバルディなどイタリア初期バロックの作品を演奏する場合、初期イタリアンのチェンバロの音色＝低音は打楽器的に太く、高音は繊細に響く＝を意識して弾くこと。

◆ 基本的なテクニック 他

- ・ 椅子の高さと手の位置は皆違うものだが、手の重みが自然に鍵盤に落ちるポジションを探す。手首が上がってしまうと弾きにくく、指先のコントロールが難しくなる。
- ・ 指の動きは最低限にし、必ず次の音を弾くための準備をする。
- ・ 音楽的に一致し、レガートが弾けるのが基本の指使い。アルペジオは和音の指使いのポジションで用意する。
- ・ プレストとは「速く」だが、うるさくではなく、軽く大きなフレーズで弾くように。
- ・ 対位法的な作品ではオルガンで弾くことを想像し考えて、テーマおよび対旋律が聴きとりやすいように、弾き分けをする。間にある部分は軽く。
- ・ 指を動かすテクニックを筋肉に覚えさせるためのお勧めは『ハノン』。時間をかけて軽く良い音で弾いたら、次の段階の速さに上げていく。装飾音も同様で、これによりテクニク的なことには頭を使わず弾けるようになり、音楽的なことに頭を使うことができる。
- ・ 後打音付きトリルは途中で止めないこと。



レッスンは時間を一杯使った密度の濃いもので、コルティ氏が求めていることは明確な演奏、つまり、バロック音楽の特色、作曲家が意図したもの、演奏者がそこから取り出す音にする際にやっていることを聴き手がよく理解できるような演奏表現であり、それは音楽の理論的な分析と、作品の同時代に残された文献資料や証言に裏打ちされているべき、ということだろう。

全部をここに書くことはできなかったし、また個々の受講者や演奏曲に沿ったものにはならなかったが、レッスンで言及されたり実際に試された具体的な例などは入れ込んでみた。そのため読みにくく感じられる箇所があったらご容赦いただきたい。この日までにご尽力くださったスタッフの方々に、深く感謝申し上げます。（川合由美子）

例会の企画案を随時募集中！

詳しい募集要項は、協会ホームページの「催し物」→「例会募集要項・お問い合わせ」をご参照ください。

昨年の創刊号はおかげさまで大変御好評を頂いており、例会等の場でもお求めになる方が増えているようで、嬉しい限りです。第2号は、今年も5月の「チェンバロの日!」に発刊予定で、当日ご参加の方には先行配布・販売をいたします。

アルテスパブリッシング刊 定価 3,000 円 (税込)
会員：無料配布 サポーター・法人会員・団体会員：有料購読

気になる内容はこちら↓

- ・特集：「チェンバロの復興と今」
- ・海外レポート：フランス、スペイン等ヨーロッパに留学後、そのまま現地に残り、現地の学校で教鞭を取っている方々から寄せられた、大変興味深いレポートの数々
- ・連載：アトリエ探訪、楽譜紹介
- ・新コーナー：会員録音物紹介ページ 他

現在、入稿が全て完了し、これから最終校正に入るところで、本の形に生まれて来るのを見るのはいつも楽しみです。内容も充実していることを、胸を張ってここに申し上げます。レベルを保ちつつ、更に質の高いものを目指して作り続ける、という事が、実は本当に大変な仕事になって参ります。皆様の投稿やアイデア、ご意見・ご感想・お問い合わせなどは、常に受け付けております。

年報委員会：cembalonenpou2017@gmail.com

それでは、まもなく完成の第2号を、どうぞお楽しみに!

広報より

<会員の演奏会・イベント情報 掲載依頼方法について>

会員(会員区分：会員)の方は、ご自身が出演される演奏会・イベントの情報を協会ホームページに掲載、および Facebook 協会公式ページ・Twitter 協会公式アカウントでの配信を行う事ができます。

※ 掲載・配信作業は担当者が行います。

ご希望の方は、演奏会・イベントの文字情報と、チラシ画像(任意/JPEG)を、メールでお送りください。

広報 コンサート情報担当：concertinfo_jhs@yahoo.co.jp

● 演奏会・イベントの問い合わせ先(電話番号やメールアドレス等)を、文中に必ず明記するようお願いいたします。協会では、掲載情報について、お客様からのお問い合わせには対応できません。また、掲載・配信の際は、いただいた文章を基本的にそのまま掲載し、こちらでの詳細確認はいたしませんので、ご了承ください。

● Facebook と Twitter では、毎月2日と16日に配信を行います。演奏会・イベントの開催日に関わらず、情報をお寄せいただいた直後の2日または16日が配信日となります。よって、広報への情報送信の締め切りは、毎月1日および15日の午前0時です。例)8月14日に行われるコンサート情報を、8月2日以降に送っていただいても、配信はできません。ただし、ホームページには随時掲載いたします。

● 年会費未納の方、滞納されている方、また滞納などの理由で会員の資格を失った方は、ホームページ掲載および Facebook・Twitter での配信を依頼することはできません。※ 必ずご自身の年会費の納入状況をご確認ください。納入状況が不明の場合は、「年会費納入状況の確認」とタイトルを付け、お名前を明記の上、事務局にメールをお送りください。確認後ご連絡いたします。

● 演奏会・イベントの情報掲載および配信は、会員の方の特典です。サポーターの方が掲載・配信を希望される場合は、会員区分を変更していただく必要があります。事務局へご相談ください。

事務局：japan.harpsichord.society.jp@gmail.com

🎵 会計より

<更新手続き／諸変更について>

- * お申し出がない限り毎年自動継続となり、更新手続き（会費納入）をお願いしております。
- * ご入金の確認ができ次第、新しい会員証を送付いたします。
- * 前年度（2017年4月1日から2018年3月31日）の年会費が未納の方は、新年度分とあわせてお振込ください。年会費のお支払い状況に関しては、事務局までお問い合わせください。
- * 例会やイベント会場でも更新手続きを受け付けております。どうぞご活用ください。

【年会費】 会員：6,000円（学生：3,000円） サポーター：3,000円 法人・団体会員：10,000円

- * 協会ホームページ内「会員専用ページ」を閲覧するのに必要なパスワードは、年度ごとに更新され、その年度の年会費をお納めくださった方に個別にお知らせしております。
- * 住所やメールアドレス等の変更、会員区分の変更、また退会の際は、事務局までご連絡ください。

<賛助金の募集>

より良い協会活動の実現のため、随時、賛助金を受け付けております。
下記口座へお振込される際は、その旨を事務局までお知らせくださるようお願いいたします。

【賛助金】 会員・学生会員・サポーター：一口3,000円より 法人・団体会員：一口10,000円より

— 年会費・賛助金 お振込先 —	※ ゆうちょ銀行以外の金融機関から振込される場合
ゆうちょ銀行 名義：日本チェンバロ協会 記号：10090 番号：07246611	店名：〇〇八（ゼロゼロハチ） 店番：008 預金種目：普通預金 口座番号：0724661

- 振込用紙の送付は行っておりません。
- 手数料はご負担願います。

🎵 事務局より

事務局：japan.harpsichord.society.jp@gmail.com

<協会員名簿について>

現在ホームページ上に、皆様（「会員」に限らず全協会員）の氏名を掲載するべく作業を進めております。
掲載を希望されない方は、2018年4月30日までに、協会事務局へご一報ください。
ご連絡のない場合は同意されたものとみなし、氏名を掲載させていただきます。

ただし、入会時に「掲載を希望しない」と意思表示をし、その後変更のない方は、ご連絡不要です。
ご記憶が曖昧な場合は、事務局へお問い合わせください。

- メールアドレスや住所変更のご連絡、年会費のお支払い状況に関するお問い合わせは、事務局までお願いいたします。
- 最新のメールマガジン（3月31日付 第75号）を受信できていらっしゃらない方は、ご連絡ください。
- 協会の運営に携わってくださる方を随時募集しております！詳しくは事務局へ、お気軽にお問い合わせください。



日本チェンバロ協会
Japan Harpsichord Society

会報第10号 2018年4月1日発行 発行人：久保田慶一
編集：高橋ナツコ、流尾真衣、山縣万里、山本庸子

日本チェンバロ協会事務局

住所：〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目44-4 1階
電話：080-9661-8196（火曜日 10時～17時に対応）
メール：japan.harpsichord.society@gmail.com
ホームページ：http://japanharpsichordsociety.jimdo.com